



令和3年度第1回健やか生活応援講座の様子



ミニ展示

## 令和3年度第2回健やか生活応援講座 「免疫力を高めるセルフケア～知りたい！整体ってなんだろう？」 を開催します！

香川県立図書館では、県民の皆様の関心が高い「健康・医療・介護・生きがい」に関する講座を毎年2回開催しています。

第1回は、「女性のためのエイジングケア～若々しく、いきいきとすごすために～」を開催し、現場で活躍されている講師の方から、エイジングケアに関する基礎知識や年齢に応じたケアなどを学びました。

第2回は、令和4年2月12日（土）に開催します。これからの季節は、インフルエンザが流行する時期であり、新型コロナウイルス感染症との同時流行も懸念されています。そこで、風邪や肺炎などの感染症に備えて免疫力を高める方法のひとつとして、整体を通して簡単にできるセルフケアの方法を、整体師の方から実技を含めて学びます。

コロナ禍で、普段の生活に制約があるなかでも、楽しみながら生きがいにつながるような日常生活を送るために、からだところのケアにつながる、中高年向けの講座です。詳細は、後日、館内配布のチラシや当館ホームページでお知らせします。

また、健やか生活応援コーナーにおいては、話題のテーマや時節に応じたミニ展示を行っており、2月20日（日）まで「知りたい！夫婦円満のコツ」をテーマに展示しています。どうぞご利用ください。

## レファレンス日誌から 第13回



～「門外不出の『諸国香道門人帳』を追い！」の巻～

香道をたしなんでいる方より「『香道入門』（淡交社）という本に、江戸時代の財田、新名、詫間周辺に香道の家元蜂谷家の弟子がいたと書いてあった。どんな人物たちだったのか調べてほしい。」との依頼がありました。

同書を確認したところ、蜂谷家所蔵の門外不出の門人帳『諸国香道門人帳』に掲載されている門人について、四国の讃岐の志野郡高瀬村・新名村・財田上村・詫間村・同三野郡宝田村などの数ヶ所にわたって二十九名が入門していることや、庄屋・大庄屋とか大地主などがまとまって入門しており、金毘羅さん近くの四国で江戸中期に盛んに香会が行われていたことはまことに興味深いなどの記述がありました。

門人帳は門外不出とのことで、資料などに収録された門人帳そのものを探すのは難しそうですが、そこで諦めるわけではありません。どこかに手がかりはないか様々な資料を探します。

最初に香川県の西讃地域の市史、町史などから香道についての記述を探しましたが、手がかりは見つかりませんでした。そこで、今度は香道の歴史の本を探します。すると、『香道の歴史事典』（柏書房）に西山松之助氏の著書『家元の研究』に蜂谷家の『諸国香道門人帳』を分析した結果が収められているという記述を見つけました。

ワクワクしながら、『西山松之助著作集 第一巻 家元の研究』（吉川弘文館）を開くと、讃岐の門人の氏名が村ごとに掲載されており、主な人物の詳細な記述もありました。門人の中には丸亀藩主が来遊していた詫間村の豪農がいたことも分かりました。

私たち司書は、日々、様々な質問をいただきます。中には、探すのが難しいものもありますが、例え知らないことでも、どんな本を調べれば載っているかについては、精通しています。

質問してくださった方に喜んでいただけることはもちろんのこと、今まで知らなかった興味深い事実を知ることができるのも司書として働くことの醍醐味だと思い、日々仕事をしています。



### ● 図書館行事報告 ●

#### ◆ 図書館探検 ◆

秋の読書週間に合わせて、10月24日(日)に大人向け、11月3日(水・祝)におやこ向け(小学生とその保護者対象)の図書館探検を開催しました。

参加者からは「図書館の裏側をみれて楽しかった。」「書庫の本がたくさんあって楽しかった。」「カウンター体験ができて少し自信がついたような顔をしていたので良かったです。」などの感想をいただきました。



大人の図書館探検ツアー



おやこde図書館探検

#### ◆ 子育て支援講座「親子で楽しく学ぼう！お片づけのコツ」◆

11月21日(日)に整理収納教育士・整理収納アドバイザーのわきやさゆり氏をお招きし、絵本の読み聞かせやカードを使った探し物ゲーム、物の仲間分けなどを通じて、お片づけのコツを学びました。



参加者からは、「やる気のなかった我が子が片付けをやる気

になっていった。とても楽しい講座だった。」「子どもが興味を持てる内容、進め方でよかった。」などの感想をいただきました。



## ～ ト ラ の 本 ～

## この本オススメです！

今年は十二支の三番目「寅」年です。動物では、虎（トラ）を充てます。

トラは、シベリアからアジア東北部、東南アジア、インドなどの森林に生息するネコ科の哺乳類です。私たちは動物園でしかお目にかかることがなく、あまりなじみのない動物ですが、日本の文献に虎が最初に現れたのは『日本書紀』だそうです。

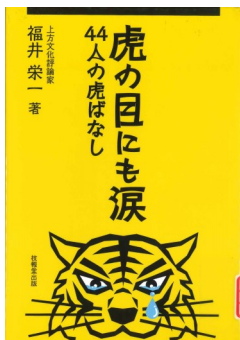
昔の人は、虎という恐ろしい猛獣が外国には棲んでいるということを知っており、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」「虎の尾を踏む」や「虎視眈々」「虎の巻」「虎の子」など、虎に関係するたくさんの故事成語や慣用語が今でも使われています。

寅年にあたり、今回はトラの本を紹介します。



『トラ学のすすめ アムールトラが教える地球環境の危機』  
関 啓子／著（三冬社）2018.6（請求記号：4895/S13）

トラをこよなく愛する社会学者の著者が、アムールトラを中心に、生態学や地理学、民俗学など多方面からトラと人間との共存について考え、さらにはそれを糸口に、地球の環境問題を考えようと提案しています。



『虎の目にも涙 44人の虎ばなし』  
福井栄一／著（技報堂出版）2009.11（請求記号：2804/F3）

「トラ」にゆかりの深い44人を紹介した本書。渥美清演じる寅さん、寅退治譚の加藤清正、『山月記』の虎になった主人公李徴から、頓智に優れた名僧一休さんやタイガーマスクまで、歴史上の人物や本、映画の登場人物など、「トラ」にまつわる小ネタになる話が満載です。



『むかしむかしとらとねこは… 中国のむかし話より』  
大島英太郎／文・絵（福音館書店）2009.4（請求記号：J/0158/3）

これは、トラとネコの生態から生まれた中国のむかし話です。昔、のろまなトラは、獲物を捕まえるのが上手なネコに狩りの方法を教えてもらいます。音を立てずに近づく方法、早く走る方法、高い所から飛び降りる方法。唯一、木に登る方法を教えてくれなかったのが、トラはほとんど木に登ることがないとか。

## ●図書館コーナー紹介～洋書コーナー～●



県立図書館には、日本語で書かれた本だけではなく、外国語で書かれた本もあります。

1階閲覧室の洋書コーナーには、主に英語で書かれた大人向けの本を約1,400冊配架しています。

洋書コーナーにある本のうち、半数は小説などの文学作品です。

英米文学のほか、日本や韓国、フランス、ドイツなどの非英語圏の小説を英訳したものがあります。

ジャンルは、文豪が書いた名作からハリウッド映画の原作となったポップな作品まで様々です。

最近では、ピューリッツァー賞や全米図書賞、ブッカー賞などの世界的に注目度の高い賞を受賞した作品が仲間入りしています。

全米図書賞翻訳部門を2018年に受賞した『献灯使』（多和田葉子）や2020年受賞の『JR上野駅公園口』（柳美里）も、もちろん置いています。

これらの受賞作や最終候補に選ばれた作品は、ポップをつけて展示していますので、話題の洋書が気になる方はご覧ください。



「児童文学から洋書に挑戦してみたい！」という方向けに、英語で書かれた児童書を並べています。

『チョコレート工場の秘密』（ロアルド・ダール）や『不思議の国のアリス』（ルイス・キャロル）など、日本でもよく知られている作品が多いので挑戦しやすいのではないのでしょうか。

当館所蔵の和訳本と見比べてみたら、「原書ではこんな表現なのか！」という発見があって面白いかもしれません。

また、「洋書に興味はあるけど、外国語は難しいな」という方は、レシピブック、画集、写真集などがおすすめです。和書とは違った、紙の感触、デザインの色、装丁を楽しむのもなかなか乙なものですよ。

外国語が得意な方も、そうでない方も、ぜひ洋書コーナーをのぞいてみてください。いつもとは一味違う読書体験が広がるかもしれません。



編集・発行 香川県立図書館

〒761-0393 高松市林町2217-19(香川インテリジェントパーク内)

TEL 087-868-0567 FAX 087-868-0607

<https://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>